

2025年度(第70期)事業報告

2025年度(第70期)事業報告

財務諸表等

(1)貸借対照表

(2)貸借対照表内訳表

(3)損益計算書(正味財産増減計算書)

(4)正味財産増減計算書内訳表

(5)財務諸表に対する注記

(6)附属明細書

(7)財産目録

収支計算書

(1)収支計算書

(2)収支計算書に対する注記

2026年度(第71期)事業計画

2026年度(第71期)事業計画

収支予算書

維持会員一覧表

2026年5月

一般社団法人 日本トライボロジー学会

2025年度（第70期）事業報告

自 2025年4月 1日
至 2026年3月31日

1. 会員の異動状況

会 員 の 種 類		本期末会員数	前期末会員数	差 引 増 減
名 誉 会 員		18	17	1
正 会 員		2175	2228	▲53
学 生 会 員		465	415	50
維 持 会 員	S 級	6	6	0
	A 級	8	8	0
	B 級	4	4	0
	C 級	11	11	0
	D 級	12	13	▲1
	E 級	125	121	4
	合 計	166	163	3
公 共 会 員		19	9	10

2. 事業の状況

(1) 行事

行 事 名	講演件数	参加者数	期 日	開催方法
第12回日中トライボロジー先端フォーラム	21	60	2025.4.11-13	対面 (中国)
第69期2024年度評議委員会	—	49	2025.5.9	ハイブリッド (東京)
第3回 Early Career Tribology Symposium (JAST-STLE Joint Session)	11	(STLE Annual Meeting & Exhibition 併催)	2025.5.20	対面 (アトランタ)
第69期定時社員総会	—	1329	2025.5.27	対面 (東京)
トライボロジー会議 2025 春東京	159	883	2025.5.26-28	対面 (東京)
トライボロジー入門講座	5	92	2025.7.11	ハイブリッド (東京)
学生会員向けトライボロジー業界の情報提供企画	18社	26	2025.8.29	オンライン
トライボロジー会議 2025 秋函館	348	683	2025.10.08-10	対面 (函館)
ヤングトライボロジストシンポジウム	11	(トライボロジー会議秋併催)	2025.10.09	対面 (函館)
チェコ-日本トライボロジーワークショップ	31 (ポスター含む)	34	2025.10.21-23	対面 (チェコ)
トライボロジー応用講座【設計編】	2	31	2025.10.30	ハイブリッド (愛知)
トライボロジー秋の学校	64 (ポスター含む)	86	2025.11.06-07	対面 (愛知)
Japan-Taiwan Tribology Symposium 2025	21	32	2025.11.14-16	対面 (石川)
トライボロジー応用講座【実験・計測編】	1	23	2025.11.28	ハイブリッド (東京)

トライボロジー先端講座	4	18	2026. 1. 21	ハイブリッド (東京)
トライボロジー懇談会	1	40	2026. 1. 30	ハイブリッド (東京)
トライボロジー入門西日本講座	5	23	2026. 2. 3	ハイブリッド (大阪)
維持会員企業交流会	—	15	2025. 3. 11	対面 (東京)

- ・ トライボロジー会議 2025 春 東京は、昨年に引き続き対面方式で開催しました。講演件数は特別フォーラムを含めて 159 件、参加者数は 883 名で 2015 年以降では最多の昨年の参加者数に匹敵しており盛況でした。本会の特徴でもある対面での発表、討論や異分野業界の出会いの場としての価値が発揮されました。特別講演では、「生成 AI をめぐる倫理問題・社会問題」と題し、明治大学の村田 潔 教授にご講演いただき、予定時間を超えてなお質疑が続くほどの関心をいただきました。なお、特別フォーラムではオンライン同時配信によるハイブリッド開催とアーカイブ配信を実施しました。昨年度は機器トラブルでいずれも中止となりましたが、原因を特定して対策を行うことで無事に実施することが出来ました。
- ・ トライボロジー会議 2025 秋 函館は、現地の実行委員がほとんどいない状況で実行委員会を組織し、2024 年 9 月から毎月 1 回のペースで Web 会議を開催しながら準備をしてきました。天候にも恵まれて無事に開催されましたが、万が一に備えて災害対応や完全オンラインの準備も進めておりました。昨年に続き多くの参加者にとって遠方での開催となりましたが、昨年を超える 683 名と多くの方に参加いただきました。本会議では、過去最多となる 10 テーマのシンポジウムが企画され、発表件数も 348 件と過去最多となり、当初予定の 6 室から 8 室へ講演室を増やしての開催となりました。特別講演は、「カーリングをもっと強く、もっと身近に。カーリングを支援する技術の研究、その面白さと難しさ」と題して、北見工業大学の榊井文人先生にはカーリングの支援機器の開発やカーリングのストーンが曲がるメカニズムの研究について、公立はこだて未来大学の竹川佳成先生にはピアノの支援機器やストーンの動きを測定するシステムについてご講演いただきました。さらに、特別展示として VR (Virtual Reality) 体験とカラーリング体験のイベントを行いました。昨年の教訓や皆様からの多大なご支援と全国各地の若手とベテランの実行委員の力を集結して無事に盛会に終わることができました。
- ・ 第 70 期における海外との 2 国間交流事業は、第 12 回日中トライボロジー先端フォーラム、第 3 回 Early Career Tribology Symposium, チェコ-日本トライボロジーワークショップ, Japan-Taiwan Tribology Symposium 2025 を開催し、いずれも盛況でした。
- ・ 第 70 期に計画していた教育講座は、計画通り実施しました。入門講座、応用講座【設計編】および【実験・計測編】、先端講座、懇談会、西日本入門講座はハイブリッド方式で開催しました。入門講座は昨年までは 1.5 日でしたが、今年度から講師やテキストを一新してこれまでの内容を 1 日に要約した講座へリニューアルしました。概ね好評で、時間配分についてもちょうど良いとのアンケート回答が大半でした。
- ・ 若手同士の直接対話を重視する「秋の学校」は引き続き対面方式により 1 泊 2 日で開催しました。「秋の学校」はこれまでの開催で学生同士の交流や学生と企業の交流に一定の役割を果たしました。今期を区切りとして終了することに致しました。今後は、本取組をトライボロジー会議に移して、若手の交流を目的としたポスター発表や若手交流会の企画を予定しております。
- ・ トライボロジー分野の学生と本会維持会員企業との相互理解および交流促進を目的とし、「学生会員向けトライボロジー業界の情報提供企画」を開催しました。本年は 2 部構成とし、第 1 部は企業紹介、第 2 部は先輩社員(または採用担当者)との交流を行いました。学生側と企業側の双方の参加者から盛況でした。今後も学生と維持会員企業との懸け橋となるための活動を推進します。

(2) 会 誌

会誌「トライボロジスト」、電子版トライボロジスト (J-STAGE に掲載)、英文電子ジャーナル「Tribology Online」を発行しました。

「トライボロジスト」は 12 回発行し、ページ数は本文 896 ページ (70 巻 4 号～71 巻 3 号)、論文投稿件 20 件、論文掲載数 14 件となりました。特集として、「歯車・ボールねじ・チェーンの機能向上に関する技術動向」、「化学機械研磨とトライボロジー」、「樹脂しゅう動材の技術動向」、「高速動力伝達装置のトライボロジー課題とその対策」、「原子スケールからメソスケールまでのトライボロジーシミュレーション」、「カーボンニュートラルに貢献する潤滑剤」、「ゴムの摩擦」、「未来をひらく若手トライボロジスト」、「トライボロジーを支える可視化技術(3)」、「トライボロジー技術への AI の活用」、「2026 年研究会がリードするトライボロジー分野の最新動向」、「次世代燃料を見据えた内燃機関・要素部品および計測技術の研究開発動向」を刊行しました。また、「トライボロジーを語る」、「トライボロジー海外体験記」「トライボエピソード-博士号取得-、トライボエピソード-論文賞受賞-、トライボエピソード-技術賞受賞-、トライボエピソード-奨励賞受賞-、トライボエピソード-学生奨励賞-」は継続して掲載しました。会誌「トライボロジスト」は 2026 年 4 月 (第 71 巻, 第 4 号) から電子ブックに移行します。移行に向けて、トライアル版の公開を 2025 年 4 月号より実施しております。

Tribology Online は、Vol. 20 Issue 2～Issue 4 および Vol. 21 Issue 1 を発行し、ページ数 312 ページとなりました。また、継続してジャーナルインパクトファクタ (JIF) の向上に向け、Emerging Sources Citation Index (ESCI) 掲載のための対応などを継続しています。

(3) 研 究 会

第 70 期は、学会指定研究会 (1)、産学協同研究会 (4)、会員提案研究会 (22) および地区研究会 (2) の計 29 の研究会が活動を行いました。

研 究 会 名	種 別	回 数	開催方法
カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術研究会	学会指定	8	対面
添加剤技術研究会	産学協同	5	対面
固体潤滑研究会	産学協同	6	対面, オンライン
グリース研究会	産学協同	3	ハイブリッド
転がり軸受寿命研究会	産学協同	2	オンライン
エンジン潤滑研究会	会員提案	2	対面, オンライン
転がり疲れ研究会	会員提案	1	オンライン
シール研究会	会員提案	2	対面
摩耗研究会	会員提案	1	対面
メンテナンス・トライボロジー研究会	会員提案	2	対面
塑性加工のトライボロジー研究会	会員提案	1	対面
トライボケミストリー研究会	会員提案	2	オンライン
自動車のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
アルミニウムのトライボロジー研究会	会員提案	2	対面
高分子材料のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
“超”を目指す軸受技術研究会	会員提案	3	対面

スペーストライボロジー研究会	会員提案	2	対面
トライボロジーの AI とシミュレーション研究会（名称変更）	会員提案	1	ハイブリッド
変速機のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
機能性コーティングの最適設計技術研究会	会員提案	2	対面
境界潤滑研究会	会員提案	1	対面
工作機械のトライボロジー研究会	会員提案	3	対面
トライボダイナミクス研究会	会員提案	2	対面
表面力研究会	会員提案	1	対面
水素のトライボロジー研究会	会員提案	2	対面
トライボ AE センシング研究会（新設）	会員提案	1	対面
トライボパソロジー研究会（新設）	会員提案	1	対面
日本海トライボロジー研究会	地 区	1	対面
北海道トライボロジー研究会	地 区	1	対面

- ・ 第 70 期(2025 年度)の各研究会は、積極的な活動が行われました。また、研究会に関する会計処理は、昨年に作成したマニュアルの活用と説明会の実施によりスムーズに処理されました。
- ・ 学会指定研究会である“カーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術研究会”の活動は、3 年目を迎えました。同研究会は、過去、現在、未来にわたってカーボンニュートラルに寄与するトライボロジー技術を調査し、情報を整理して分野の方向性や課題を提案することを目的としています。この分野は維持会員企業にとって非常に注目されており、維持会員企業や関連する産業界のカーボンニュートラルに関する活動のヒアリングを実施してきました。3 年目である 70 期では、活動成果の報告としてトライボロジー会議 2025 秋 函館のシンポジウム「カーボンニュートラル実現に向けたトライボロジーの戦略」を実施しました。71 期において活動報告書の提出と活動成果の会誌への掲載を予定しています。
- ・ 産学共同研究会である“固体潤滑研究会”は固体潤滑の応用を広めるため、固体潤滑機構の解明や新固体潤滑剤の研究開発など幅広い視点で調査研究を進めています。70 期では、11 年ぶりに固体潤滑シンポジウムを開催して、様々なテーマでの話題提供と共に活動成果の報告を実施しました。
- ・ 会員提案研究会の“塑性加工のトライボロジー研究会”と“アルミニウムのトライボロジー研究会”が発展的統合をし、研究会名を“金属加工プロセスのトライボロジー研究会”に変更して活動します。

（４）学 会 賞

トライボロジー分野における功績と業績ならびに本会の活動への貢献に基づき、厳正な審査により、功績賞、論文賞、技術賞、奨励賞、教育貢献賞、学会活動貢献賞、学生優秀プレゼンテーション賞、特別功労賞の選考を行いました。

功績賞：4 名

論文賞：4 件（22 名）

技術賞：4 件（15 名）

奨励賞：6 名

教育貢献賞：1 名

学会活動貢献賞：4 名

学生優秀プレゼンテーション賞：9名（トライボロジー会議春：5名，トライボロジー会議秋：4名）
特別功労賞：22名

（５）主な取り組み

本学会の主な課題は、①会員サービスの充実による会員メリットの向上、②世界における日本のトライボロジーのプレゼンス向上、③学会運営の効率化と財政の健全化の３点であり、これら課題に対し、業務効率化と事業経費抑制を念頭におきつつ下記の活動に取り組みました。

〔会員向けのサービス〕

- ・ トライボロジー会議 2026 秋名古屋，International Tribology Conference (ITC) 2027 姫路の開催準備を推進し，2028 秋の開催地を富山県に定め実行委員会立ち上げの準備を開始しました。また，トライボロジー会議の実行委員長および開催場所の選出についてガイドラインを作成しました。
- ・ DX 化に関する学会の基本方針のもと，デジタル著作物による会員サービスの向上に向けて推進しました。トライボロジストの電子ブック化では，2026 年 4 月からの正式運用に向けて 2025 年 4 月からトライアル版の公開を実施しました。また，トライボロジー会議予稿集の半年経過後の WEB 無料公開を 12 月から開始しました。トライボロジーハンドブックの第 2 版の電子出版の準備も進めており，会員増強施策とも合わせて推進していきます。
- ・ トライボロジーハンドブック第 2 版の準備では，編集委員会と各編の主査が中心となり，出版社の選定を行って契約を実施しました。現在，各編は著者への連絡（原稿料，著作権移譲書）や原稿査読の段階であり，第 71 期に電子出版を予定しております。
- ・ 学会出版物は，潤滑グリースの基礎と応用第 2 版を 71 期に出版を予定しており，その準備をグリース研究会が中心となって推進しています。また，子供向け書籍についても 71 期の出版を目指して出版委員会が中心となって推進していきます。
- ・ 評議委員への選出機会が少ない維持会員企業との意見交換を目的とした維持会員企業交流会を東京理科大 森戸記念館で開催しました。参加いただいた維持会員企業の要望を学会運営に反映させると共に，ニーズをふまえた新しい形式での交流会の開催を検討していきます。
- ・ 学会の情報発信は，ホームページとメールマガジンを通して行い，講習会や研究会などのイベント情報を積極的に会員に発信しました。今後も会員に有益な情報展開を行っていきます。

〔本会のプレゼンス向上〕

- ・ Tribology Online (TROL) のジャーナルインパクトファクタ (JIF) の向上を目指し，Emerging Sources Citation Index (ESCI) 掲載のための対応，ジャーナルコンサルティングのフォローアップを継続的行いました。また，STLE との相互目次掲載，国際会議，2 国間交流，研究会などを通じた企画特集により，TROL への投稿促進と共に国内外のプレゼンス向上を目指した活動を継続します。
- ・ TROL は，本会に所属するトライボロジストが国際的な成果発信の場として貴重であり，今後も特集号の発行やレビュー記事の企画などによる JIF の更なる向上に向けた取組を推進します。
- ・ 国内でのトライボロジストの増加およびトライボロジーの発展を最終目標に，次世代教育活動を継続的に実施しました。金沢子ども科学財団のご協力を得まして，小中学生を対象とした摩擦の科学×謎解き体験学習を開催して好評でした。
- ・ 学会指定研究会“カーボンニュートラル (CN) に寄与するトライボロジー技術研究会”の活動を行い，維持会員企業の CN 推進のためにトライボロジー視点での戦略策定や機械装置のフリクションロス低減や寿命延伸，信頼性向上などの情報を共有し，各社のトライボロジストの支援を行いました。

〔運営の効率化・健全化〕

- ・ 会員が長期的に減少傾向にあることに加え、諸経費の高騰化も進んでおり、学会運営が厳しくなります。そのため、複数の効率化、経費削減、会員増施策を継続的に検討しています。第70期では、事務所の改修を行って、事務所の会議室を大人数で利用できるようにして理事会や各委員会で活用して会議室費用の削減を行いました。また、業務効率化のために導入した Microsoft Teams について、活用を進めて Web 会議を増やすことで旅費の削減を行いました。さらに、学会の経理処理を精査して、監査をこれまでの会計士から税理士に切り替えることで費用の削減を行いました。
- ・ 維持会員の増強のため、新たに大学の研究室単位で公共会員としての入会を認めました。入会した研究室所属学生は、研究室を通じて学会誌を閲覧できます。既に複数の研究室に参画いただいております。今後も継続的な入会促進を行って公共会員の拡大を図ります。
- ・ 事務局職員の働き方改革として、就業規則の改訂や年会費の郵便振替の廃止を行いました。就業規則は、専門家に委託して一般的な中小企業で採用される規則に改訂すると共に、法律に沿って育児・介護等の規程を新設しました。年会費の郵便振替の廃止は、郵便振替から自動引落や銀行振込に変更頂くことで、印刷や郵送等の費用削減と共に事務局員の作業時間削減を行いました。
- ・ 倫理委員会より各規程を所轄する委員会に見直しを依頼し、実際の内容に沿った規程となるように改訂を行っています。また、昨年に選定した会員に公開すべき規程について HP での公開を行いました。
- ・ 学会の持続性やガバナンスの強化のため、学会活動の中長期ロードマップを作成しました。2030 年までの共通の目標を定めて、委員会ごとに作成したロードマップをまとめました。今後も本取組みを継続し、活動実績の可視化によって連続性を確保するとともに、中長期的に一貫した目標を設定することで、計画的な活動を推進します。

〔70 周年記念事業〕

- ・ 学会が 70 周年を迎えるにあたり、70 周年を学会全体として祝えるよう、70 周年記念事業 WG を立ち上げて各委員会提案に基づき記念行事を推進・実施しております。主な取組みとしては、トライボロジスト 70 周年記念特集号の発刊、70 周年記念小冊子、70 周年記念表彰です。
- ・ トライボロジスト 70 周年記念特集号では、企業トップインタビュー、特別寄稿、テーマごとの座談会が企画されました。特別寄稿は「トライボロジスト」71 巻の 1 月号から掲載が始まりました。企業トップインタビューとテーマごとの座談会は 71 巻の 4 月号からの掲載を予定しております。
- ・ 70 周年記念表彰は、会員歴 50 年となる 22 名の方に特別功労賞を贈呈します。71 期に表彰をおこないます。
- ・ 70 周年記念小冊子は、祝辞を国内 16 団体、海外 16 団体から頂くと共に冊子の内容を確定して原稿を作成しております。

I 財務諸表等

(1) 貸借対照表

貸借対照表 2026年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	53,257,642	46,244,595	7,013,047
仮払金	3,911,010	3,853,478	57,532
未収入金	794,000	1,194,776	△ 400,776
前払費用	141,788	51,500	90,288
流動資産合計	58,104,440	51,344,349	6,760,091
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産			
国際活動積立資産	55,750,868	60,137,305	△ 4,386,437
トライボロジーみらい資産	43,258,862	43,331,945	△ 73,083
退職給付引当資産	3,124,187	2,441,111	683,076
特定資産合計	102,133,917	105,910,361	△ 3,776,444
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	5,864,496	8,912,959	△ 3,048,463
敷金	1,046,040	1,046,040	0
その他固定資産合計	6,910,536	9,958,999	△ 3,048,463
固定資産合計	114,044,453	120,869,360	△ 6,824,907
資産合計	172,148,893	172,213,709	△ 64,816
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,319,243	2,008,425	310,818
未払費用	1,276,890	1,217,344	59,546
前受金	557,200	377,000	180,200
前受会費	1,573,000	2,200,200	△ 627,200
仮受金	900	900	0
流動負債合計	5,727,233	5,803,869	△ 76,636
2. 固定負債			
退職給付引当金	3,124,187	2,441,111	683,076
固定負債合計	3,124,187	2,441,111	683,076
負債合計	8,851,420	8,244,980	606,440
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	600,000	600,000	0
(うち基本財産への充当額)	600,000	600,000	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	162,697,473	163,368,729	△ 671,256
(うち特定資産への充当額)	4,400,000	4,400,000	0
(うち特定資産への充当額)	99,009,730	103,469,250	△ 4,459,520
正味財産合計	163,297,473	163,968,729	△ 671,256
負債及び正味財産合計	172,148,893	172,213,709	△ 64,816

(2) 貸借対照表内訳表

貸借対照表内訳表

2026年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	会誌および図書の発行	講座・セミナー育成	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	53,257,642	0	53,257,642
仮払金	0	0	3,911,010	0	3,911,010
未収入金	794,000	0	0	0	794,000
前払費用	0	0	141,788	0	141,788
流動資産合計	794,000	0	57,310,440	0	58,104,440
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	0	0	5,000,000	0	5,000,000
基本財産合計	0	0	5,000,000	0	5,000,000
(2) 特定資産					
国際活動積立資産	0	0	55,750,868	0	55,750,868
トライボロジーみらい資産	0	0	43,258,862	0	43,258,862
退職給付引当資産	0	0	3,124,187	0	3,124,187
特定資産合計	0	0	102,133,917	0	102,133,917
(3) その他固定資産					
ソフトウェア	0	0	5,864,496	0	5,864,496
敷金	0	0	1,046,040	0	1,046,040
その他固定資産合計	0	0	6,910,536	0	6,910,536
固定資産合計	0	0	114,044,453	0	114,044,453
資産合計	794,000	0	171,354,893	0	172,148,893
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	1,566,239	0	753,004	0	2,319,243
未払費用	0	0	1,276,890	0	1,276,890
前受金	0	0	557,200	0	557,200
前受会費	0	0	1,573,000	0	1,573,000
仮受金	0	0	900	0	900
流動負債合計	1,566,239	0	4,160,994	0	5,727,233
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	3,124,187	0	3,124,187
固定負債合計	0	0	3,124,187	0	3,124,187
負債合計	1,566,239	0	7,285,181	0	8,851,420
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	600,000	0	600,000
(うち基本財産への充当額)	0	0	600,000	0	600,000
2. 一般正味財産	△ 772,239	0	163,469,712	0	162,697,473
(うち基本財産への充当額)	0	0	4,400,000	0	4,400,000
(うち特定資産への充当額)	0	0	99,009,730	0	99,009,730
正味財産合計	△ 772,239	0	164,069,712	0	163,297,473
負債及び正味財産合計	794,000	0	171,354,893	0	172,148,893

(3) 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	4,567	2,480	2,087
入会金収入	0	4,000	△ 4,000
会費収入	49,402,200	48,806,400	595,800
正会員会費収入	19,492,800	19,425,600	67,200
維持会員会費	29,480,000	29,200,000	280,000
公共会員会費	429,400	180,800	248,600
事業収益	44,413,751	43,116,113	1,297,638
出版物頒布収入	1,191,156	1,401,877	△ 210,721
広告料収入	2,731,000	3,403,000	△ 672,000
講演会・講習会収入	35,710,870	34,825,144	885,726
印税収入	267,725	393,908	△ 126,183
研究会収入	4,513,000	3,092,184	1,420,816
雑収益	18,776	32,930	△ 14,154
受取利息	3,619	3,008	611
雑収入	15,157	29,922	△ 14,765
経常収益計	93,839,294	91,961,923	1,877,371
(2) 経常費用			
事業費	50,390,458	54,553,271	△ 4,162,813
会誌出版事業費	20,928,121	19,422,015	1,506,106
研究会費用	5,437,122	4,523,389	913,733
講演会講習会費用	20,321,525	24,391,666	△ 4,070,141
図書出版費	50,000	0	50,000
英文オンライン出版費	1,932,370	3,916,330	△ 1,983,960
会議費	1,721,320	2,299,871	△ 578,551
管理費	44,120,092	43,468,056	652,036
給与手当	22,095,456	21,952,592	142,864
退職給付費用	683,076	589,583	93,493
外注費	2,141,260	2,135,540	5,720
会議費	1,094,660	1,649,277	△ 554,617
表彰関連費用	423,390	1,262,024	△ 838,634
システム構築費	735,806	0	735,806
維持会員企業交流会	65,551	180,651	△ 115,100
若手シブゾム	46,000	200,000	△ 154,000
就業規定類改定	453,750	0	453,750
弁護士費用	152,625	0	152,625
旅費交通費	2,220	4,100	△ 1,880
通信運搬費	1,041,657	1,120,359	△ 78,702
消耗品費	1,594,993	269,754	1,325,239
印刷製本費	303,796	309,647	△ 5,851
共益費	835,471	879,943	△ 44,472
賃借料	2,488,952	2,606,616	△ 117,664
租税公課	970,690	1,200,400	△ 229,710
負担金支出	2,272,414	2,287,184	△ 14,770
リース料	1,434,828	1,373,646	61,182
支払手数料	1,122,120	1,049,529	72,591
減価償却費	3,048,463	4,261,224	△ 1,212,761
雑費	1,112,914	135,987	976,927
経常費用計	94,510,550	98,021,327	△ 3,510,777
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 671,256	△ 6,059,404	5,388,148
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 671,256	△ 6,059,404	5,388,148
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 671,256	△ 6,059,404	5,388,148
一般正味財産期首残高	163,368,729	169,428,133	△ 6,059,404
一般正味財産期末残高	162,697,473	163,368,729	△ 671,256
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	600,000	600,000	0
指定正味財産期末残高	600,000	600,000	0
III 正味財産期末残高	163,297,473	163,968,729	△ 671,256

(4) 正味財産増減計算書内訳表

正味財産増減計算書内訳表
2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

(単位: 円)

科 目	会誌および図書の発行	講座・セミナー育成	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用収入	0	0	4,567	0	4,567
会費収入	0	0	49,402,200	0	49,402,200
正会員会費収入	0	0	19,492,800	0	19,492,800
維持会員会費	0	0	29,480,000	0	29,480,000
公共会員会費	0	0	429,400	0	429,400
事業収益	4,189,881	40,223,870	0	0	44,413,751
出版物頒布収入	1,191,156	0	0	0	1,191,156
広告料収入	2,731,000	0	0	0	2,731,000
講演会・講習会収入	0	35,710,870	0	0	35,710,870
印税収入	267,725	0	0	0	267,725
研究会収入	0	4,513,000	0	0	4,513,000
雑収益	0	0	18,776	0	18,776
受取利息	0	0	3,619	0	3,619
雑収入	0	0	15,157	0	15,157
経常収益計	4,189,881	40,223,870	49,425,543	0	93,839,294
(2) 経常費用					
事業費	24,010,533	26,379,925	0	0	50,390,458
会誌出版事業費	20,928,121	0	0	0	20,928,121
研究会費用	0	5,437,122	0	0	5,437,122
講演会講習会費用	0	20,321,525	0	0	20,321,525
	50,000	0	0	0	50,000
英文オンライン出版費	1,932,370	0	0	0	1,932,370
会議費	1,100,042	621,278	0	0	1,721,320
管理費	0	0	44,120,092	0	44,120,092
給与手当	0	0	22,095,456	0	22,095,456
退職給付費用	0	0	683,076	0	683,076
外注費	0	0	2,141,260	0	2,141,260
会議費	0	0	1,094,660	0	1,094,660
表彰関連費用	0	0	423,390	0	423,390
システム構築費	0	0	735,806	0	735,806
維持会員企業交流会	0	0	65,551	0	65,551
若手シンポジウム	0	0	46,000	0	46,000
就業規定類改定	0	0	453,750	0	453,750
弁護士費用	0	0	152,625	0	152,625
旅費交通費	0	0	2,220	0	2,220
通信運搬費	0	0	1,041,657	0	1,041,657
消耗品費	0	0	1,594,993	0	1,594,993
印刷製本費	0	0	303,796	0	303,796
共益費	0	0	835,471	0	835,471
賃借料	0	0	2,488,952	0	2,488,952
租税公課	0	0	970,690	0	970,690
負担金支出	0	0	2,272,414	0	2,272,414
リース料	0	0	1,434,828	0	1,434,828
支払手数料	0	0	1,122,120	0	1,122,120
減価償却費	0	0	3,048,463	0	3,048,463
雑費	0	0	1,112,914	0	1,112,914
経常費用計	24,010,533	26,379,925	44,120,092	0	94,510,550
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 19,820,652	13,843,945	5,305,451	0	△ 671,256
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 19,820,652	13,843,945	5,305,451	0	△ 671,256
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 19,820,652	13,843,945	5,305,451	0	△ 671,256
他会計振替額	△ 19,667,246	13,843,945	5,823,301	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 153,406	0	△ 517,850	0	△ 671,256
一般正味財産期首残高	△ 618,833	0	163,987,562	0	163,368,729
一般正味財産期末残高	△ 772,239	0	163,469,712	0	162,697,473
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	600,000	0	600,000
指定正味財産期末残高	0	0	600,000	0	600,000
III 正味財産期末残高	△ 772,239	0	164,069,712	0	163,297,473

(5) 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
ソフトウェア
定額法によっている。
- (2) 引当金の計上基準
退職給付引当金
職員の退職給付に備えるため、当年度末における要支給額に基づき計上している。
- (3) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理方法によっている。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	5,000,000	0	0	5,000,000
小 計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
国際活動積立資産	60,137,305	0	4,386,437	55,750,868
トライボロジーみらい資産	43,331,945	2,640	75,723	43,258,862
退職給付引当資産	2,441,111	683,076	0	3,124,187
小 計	105,910,361			102,133,917
合 計	110,910,361			107,133,917

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	5,000,000	(600,000)	(4,400,000)	(0)
小 計	5,000,000	(600,000)	(4,400,000)	(0)
特定資産				
国際活動積立資産	55,750,868	(0)	(55,750,868)	(0)
トライボロジーみらい資産	43,258,862	(0)	(43,258,862)	(0)
退職給付引当資産	3,124,187	(0)	(0)	(3,124,187)
小 計	102,133,917	(0)	(99,009,730)	(3,124,187)
合 計	107,133,917	(600,000)	(103,409,730)	(3,124,187)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	27,238,513	21,374,017	5,864,496
合 計	27,238,513	21,374,017	5,864,496

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし

(6) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,441,111	683,076	0	0	3,124,187

(7) 財産目録

財産目録
2026年 3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目 場所・物量・使用目的等		金 額
(流動資産)		
	普通預金	48,779,926
	みずほ銀行虎ノ門支店	28,385,793
	三菱UFJ銀行本店	20,394,133
	郵便貯金	4,477,716
	仮払金	3,911,010
	切手残高	9,680
	会員提案研究会	3,845,934
	地区研究会	55,396
	未収入金	794,000
	会誌出版費(別刷り代)	209,000
	広告料収入	585,000
	前払費用	141,788
	東京経営管理協会	49,500
	化学情報協会年会費	2,000
	ソフトウェア使用料	90,288
流動資産合計		58,104,440
(固定資産)		
基本財産	定期預金	5,000,000
	三井住友信託銀行本店	5,000,000
特定資産	国際活動積立資産	55,750,868
	三菱UFJ銀行本店	55,750,868
	トライボロジーみらい資産	43,258,862
	三井住友銀行浜松町支店	43,258,862
	退職給付引当資産	3,124,187
	みずほ銀行神谷町支店	3,124,187
その他固定資産	ソフトウェア	5,864,496
	敷金	1,046,040
固定資産合計		114,044,453
資産合計		172,148,893
(流動負債)		
	未払金	2,319,243
	会誌出版費	1,566,239
	業務管理システム(EM/PM)利用料	222,090
	会員管理システム利用料	171,105
	コピー費用	31,117
	消費税	322,000
	電話代	4,730
	その他	1,962
	未払費用	1,276,890
	未払賞与	1,276,890
	前受金	557,200
	紙冊子販売	145,200
	トライボロジー会議2026春	412,000
	前受会費	1,573,000
	正会員会費	590,400
	維持会員会費	960,000
	公共会員会費	22,600
	仮受金	900
	その他	900
流動負債合計		5,727,233
(固定負債)		
	退職給付引当金	3,124,187
固定負債合計		3,124,187
負債合計		8,851,420
正味財産		163,297,473

Ⅱ 収支計算書
(1) 収支計算書

収支計算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	決算額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
基本財産運用収入	4,567
会費収入	49,402,200
正会員会費収入	19,492,800
維持会員費収入	29,480,000
公共会員費収入	429,400
事業収入	44,413,751
出版物頒布収入	1,191,156
広告料収入	2,731,000
講演会講習会収入	35,710,870
印税収入	267,725
研究会収入	4,513,000
雑収入	18,776
受取利息	3,619
雑収入	15,157
事業活動収入計	93,839,294
2. 事業活動支出	
事業費支出	50,390,458
会誌出版事業費	20,928,121
研究会支出	5,437,122
講演会講習会支出	20,321,525
図書出版費	50,000
英文オンライン出版費	1,932,370
会議費	1,721,320
管理費支出	40,385,913
給与手当	22,095,456
外注費	2,141,260
会議費	1,094,660
表彰関連支出	423,390
システム構築費	735,806
維持会員企業交流会	65,551
若手シンポジウム	46,000
就業規定類改定	453,750
弁護士費用	152,625
旅費交通費	2,220
通信運搬費	1,041,657
消耗品費	1,594,993
印刷製本費	303,796
共益費	835,471
賃借料	2,488,952
租税公課	970,690
負担金支出	2,272,414
リース料	1,434,828
支払手数料	1,119,480
雑費	1,112,914
事業活動支出計	90,776,371
事業活動収支差額	3,062,923
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	
特定資産取崩収入	4,459,520
トライボロジーみらい資産取崩収入	4,386,437
投資活動収入計	73,083
2. 投資活動支出	4,459,520
特定資産取得支出	
退職給付引当資産取得支出	685,716
国際活動積立資産取得支出	683,076
トライボロジーみらい資産取得支出	2,640
投資活動支出計	685,716
投資活動収支差額	3,773,804
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0
IV 予備費支出	
当期収支差額	6,836,727
前期繰越収支差額	45,540,480
次期繰越収支差額	52,377,207

(2) 収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、下記の科目を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

現金預金
 仮払金
 未収入金
 前払費用
 未払金
 未払費用
 前受金
 前受会費
 仮受金

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	46,244,595	53,257,642
仮払金	3,853,478	3,911,010
未収入金	1,194,776	794,000
前払費用	51,500	141,788
合 計	51,344,349	58,104,440
未払金	2,319,243	2,319,243
未払費用	1,276,890	1,276,890
前受金	557,200	557,200
前受会費	1,573,000	1,573,000
仮受金	900	900
合 計	5,727,233	5,727,233
次期繰越収支差額	45,540,480	52,377,207

2026年度（第71期）事業計画

1. 行事予定

行 事 名	期 日	開催方法（開催場所）	摘 要
第70期2025年度評議委員会	2026. 5. 12	ハイブリッド（東京）	
第70期定時社員総会	2026. 5. 26	対面（東京）	
トライボロジー会議 2026 春東京	2026. 5. 25-27	対面（東京）	
セールスエンジニア向けトライボロジー・潤滑剤基礎講座	2026. 6. 30	ハイブリッド（東京）	第1回
トライボロジー入門講座	2026. 7. 24	ハイブリッド（東京）	第57回
7th Malaysia-Japan Tribology Symposium	2026. 7. 27-29	対面（マレーシア）	
学生会員向けトライボロジー業界の情報提供企画	2026. 夏（予定）	オンライン	
トライボロジー会議 2026 名古屋	2026. 9. 9-11	対面（名古屋）	
ヤングトライボロジストシンポジウム	2026. 9（予定）	対面（名古屋）	
日韓トライボロジーシンポジウム	2026. 10. 28-29	対面（韓国）	第6回
Japan-Taiwan Tribology Symposium 2026	2026. 11（予定）	対面（台湾）	第8回
トライボロジー応用講座【設計編】【実験・計測編】	2026. 12（予定）	ハイブリッド（未定）	第8回
トライボロジー先端講座	2026. 冬（予定）	ハイブリッド（未定）	第72回
トライボロジー懇談会	2027. 1（予定）	ハイブリッド（未定）	第463回
トライボロジー入門西日本講座	2027. 2（予定）	ハイブリッド（未定）	第19回
トライボロジー会議 2027 春東京	2027. 3. 3-5	対面（東京）	
第13回日中トライボロジー先端フォーラム	未定	対面（日本）	第13回
維持会員企業交流会	未定	未定	第7回

- ・トライボロジー会議 2026 春東京ならびにトライボロジー会議 2026 秋名古屋は対面方式で開催します。また、トライボロジー会議 2026 秋名古屋では、若手同士が交流を深める機会として、ヤングトライボロジストシンポジウムを計画します。さらに、トライボロジー会議春 2027 春東京を 2027 年 3 月に対面方式で開催します。
- ・教育講座は、原則ハイブリッド方式による開催を企画しています。
- ・国際交流として、7th Malaysia-Japan Tribology Symposium, 日韓トライボロジーシンポジウム, Japan-Taiwan Tribology Symposium 2026, 第13回日中トライボロジー先端フォーラムを開催する予定です。

2. 会 誌

会誌「トライボロジスト」を毎月発行します。2026 年 4 月より電子ブックに移行します。原則は電子ブックでの提供となりますが、希望する会員には実費負担により冊子版を購入できるようにいたしました。第71期は70周年記念として企業トップインタビュー、特別寄稿、テーマごとの座談会を企画しております。第71期の特集は、「高分子材料を用いたしゅう動部品のトライボロジー」、「気象・地象・水象のトライボロジー」、「窒化処理における技術動向とそのトライボロジー特性」、「自動車駆動系における電費・燃費性能改善技術の最新動向」、「ソフトでウェットなトライボロ

ジー」,「摩擦試験機の技術動向」,「トライボロジー業界における教育・研修活動」,「社会・産業を支える状態監視技術」,「Early and Mid キャリアトライボロジスト」,「研究会がリードするトライボロジー分野の最新動向」,「スポーツとトライボロジー(4)」,「人間の感覚器官に潜むトライボロジー(仮)」を計画しています。Tribology Online は, 例年どおりの年間 4 号以上の発行を予定しております。

3. 研 究 会

第 71 期は, 学会指定研究会(0), 産学協同研究会(4), 会員提案研究会(21)および地区研究会(2)の計 27 の研究会が活動を行います。学会指定研究会については, 1 年をかけて検討を行って新しい研究会を第 72 期に立ち上げる予定です。各研究会の活動内容の見える化ならびに研究戦略や将来展望などの情報の共有化を目的に, トライボロジストでの定期特集記事化を継続します。

学 会 指 定 研 究 会 : なし

産 学 協 同 研 究 会 : 添加剤技術研究会, 固体潤滑研究会, グリース研究会, 転がり軸受寿命研究会

会 員 提 案 研 究 会 : エンジン潤滑研究会, 転がり疲れ研究会, シール研究会, 摩耗研究会, メンテナンス・トライボロジー研究会, 金属加工プロセスのトライボロジー研究会(名称変更), トライボケミストリー研究会, 自動車のトライボロジー研究会, 高分子材料のトライボロジー研究会, “超”を目指す軸受技術研究会, スペーストライボロジー研究会, トライボロジーの AI とシミュレーション研究会, 変速機のトライボロジー研究会, 機能性コーティングの最適設計技術研究会, 境界潤滑研究会, 工作機械のトライボロジー研究会, トライボダイナミクス研究会, 表面力研究会, 水素のトライボロジー研究会, トライボ AE センシング研究会, トライボパソロジー研究会

地 区 研 究 会 : 日本海トライボロジー研究会, 北海道トライボロジー研究会

4. 学 会 賞

トライボロジー分野における功績と業績ならびに本会の活動への貢献に基づき, 功績賞, 論文賞, 技術賞, 奨励賞, 学生優秀プレゼンテーション賞, 教育貢献賞, 学会活動貢献賞の選考を行います。併せて, これまで位置づけが不明確だった奨励賞と学生優秀プレゼンテーション賞の整理を行い, トライボロジー会議 2026 秋名古屋から新しく講演賞(優秀プレゼンテーション賞と学生優秀ポスター賞)を導入します。奨励賞は自薦・他薦が必要となり, 優秀プレゼンテーション賞は企業を含む若手の口頭発表を対象とし, 学生優秀ポスター賞は学生のポスター発表を対象とします。これらの見直しにより, 若手への受賞機会の拡充を図るとともに, 学会賞受賞に向けた段階的なステップを明確化し, 本会への継続的な参画と貢献を促します。

5. 主な取り組み

会員サービスの更なる向上, 本会のプレゼンス向上, 運営の効率化・健全化に向けて, 下記の活動に取り組みます。

[会員向けのサービス]

- ・論文, 解説記事, 予稿集, トライボロジーハンドブック, トライボロジストなどに関して, デジタル著作物による会員サービスの向上をはかります。本取組を広く周知する機会として, 70 周年記念行事を活用した広報活動を推進します。
- ・第 71 期より会誌「トライボロジスト」が電子ブックに本格的に移行します。電子ブックならで

はのサービス（動画やリンクの貼付，検索機能の強化）を拡充していきます。

- ・第71期は，トライボロジーハンドブック第2版，潤滑グリースの基礎と応用第2版を発刊予定としております。発刊に向け編集活動と出版準備を進めます。また，学会が関わる書籍出版の計画を見直し，出版計画に基づいた出版支援を行う予定です。
- ・トライボロジー会議 2026 春東京において，子育て支援施策を実施します。第70期に引き続き託児所利用料金の補助に加え，親子休憩室の設置，子ども同伴での参加を可能とすることにより，子育て世代に配慮した会議運営を目指します。
- ・講習会等は，ハイブリッド方式での開催を継続し，参加者の満足度を確保しながら経費削減に努めます。教育講座のリニューアルを推進しており，第71期にセールスエンジニア向け講座を新設しました。営業や製造などの業務を通じてトライボロジーに触れる機会のある方を対象として入門講座より易しい内容で実施しますので，是非ご参加をお願いします。
- ・若手トライボロジストの交流の場として，ヤングトライボロジストシンポジウムなどを開催します。秋の学校は70期で終了して71期からはトライボロジー会議でのポスター発表と交流会での実施を計画しており，トライボロジー会議 2026 秋名古屋で試験的にポスター発表を実施する予定です。

[本会のプレゼンス向上]

- ・次世代教育活動の一環として，体験学習，企業見学会，他機関主催行事への出展などを活用し，多様な観点からの取り組みを継続します。
- ・本会に関連した機械系学協会，教育機関や科学館などの機関との連携を継続的に強化します。
- ・リーフレットを用いた学会の周知活動を強化し，個人，維持会員や公共会員の入会を促します。
- ・Tribology Online のジャーナルインパクトファクタ（JIF）の向上のための施策を継続します。特集号の発行やレビュー記事の企画などと併せて，校閲プロセスの一層の効率化と迅速化を推進し，より質の優れた論文の掲載を目指します。
- ・海外の主要な学会（STLE, GFT）との連携強化および主要な国際会議（WTC, Asiatrib, STLE annual meeting, Leeds-Lyon）における本会のプレゼンス向上を目指し，関係者と引き続き協議を行います。また，STLE と Early Career Tribologists Symposium の合同開催について協議を継続します。2 国間交流事業としては，7th Malaysia-Japan Tribology Symposium, 日韓トライボロジーシンポジウム, Japan-Taiwan Tribology Symposium 2026, 第13回日中トライボロジー先端フォーラムなどの開催を予定しています。
- ・本会の英語版ホームページを更新・拡充し，本会の国際的プレゼンス向上をはかります。

[運営の効率化・健全化]

- ・現状の学会の財務状況は厳しく，財務委員会による計画のもと改善活動を継続します。トライボロジストの電子ブック化は，会員サービス向上のみならず財務改善策の一つでもあり，ペーパーレスによる経費削減効果が期待できます。
- ・IT システムへの投資効果を高めるため，計画的なシステム改修を行い，将来的な業務システム改修，新規ベンダーなどの検討を開始します（中長期的取組）。また，情報セキュリティ対策，物理的セキュリティ対策を推進していきます。
- ・本会の運営の改善や変更，世の中の動向に伴い，規程類の見直しを随時行うとともに，最新の規程類が円滑に浸透する良好なガバナンス状態を目指します。
- ・学会活動の中長期ロードマップを更新し，活動実績の可視化によって連続性を確保するとともに，中長期的に一貫した目標を設定することで，計画的な活動を推進します。

[70 周年記念事業]

- ・学会が 70 周年を迎えるにあたり，70 周年を学会全体として祝えるよう，70 周年記念事業 WG を中心に各委員会提案のもと記念行事を推進していきます．具体的には，トライボロジスト 70 周年記念特集号，70 周年記念小冊子，70 周年記念表彰，トライボロジー会議 2026 春の特別企画などの 70 周年記念事業を推進します．
- ・トライボロジスト 70 周年記念特集号は，企業トップインタビュー，特別寄稿，テーマごとの座談会を企画し，今後のトライボロジー分野ならびに学会の進む方向の一つを示します．特別寄稿は「トライボロジスト」71 巻の 1 月号から始まっており，12 月号まで掲載を予定しております．企業トップインタビューとテーマごとの座談会は 71 巻の 4 月号からの掲載を予定しております．
- ・70 周年記念小冊子では，歴代会長や学会年表でこれまでのトライボロジー学会を振り返ると共に，トライボロジー 70 年の発展と貢献を技術史で振り返る記事を掲載します．トライボロジー会議 2026 春東京までの完成を目指します．本記念小冊子は電子版での配布を予定しております．また，海外向けに英語版の作成も計画しております．本記念小冊子を活用し，トライボロジー学会のプレゼンス向上，会員増強にも努めてまいります．
- ・70 周年記念表彰は，会員歴 50 年となる 22 名の方に特別功労賞を贈呈します．2026 年 5 月の実施を予定しており，賞状及び記念品(漆器)の配付や 70 周年記念小冊子への受賞者リストの記載を行います．
- ・トライボロジー会議 2026 春の特別企画では，特別講演「日本トライボロジー学会創設 70 周年，そして……」と「トライボロジーを楽しむ」とパネルディスカッション「日本トライボロジー学会 70 年の歩みと 100 年に向けて未来を考える」を予定しております．

収支予算書

収支予算書

2026年 4月 1日から2027年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	4,000	2,341	1,659
会費収入	49,028,000	49,601,600	△ 573,600
正会員会費収入	18,816,000	20,160,000	△ 1,344,000
維持会員会費	29,760,000	29,080,000	680,000
公共会員会費	452,000	361,600	90,400
事業収益	41,007,000	34,157,098	6,849,902
出版物頒布収入	600,000	1,000,000	△ 400,000
広告料収入	2,800,000	3,940,000	△ 1,140,000
講演会・講習会収入	35,510,000	26,952,100	8,557,900
印税収入	217,000	384,998	△ 167,998
研究会収入	1,880,000	1,880,000	0
雑収益	22,000	35,609	△ 13,609
受取利息	4,000	3,610	390
雑収入	18,000	31,999	△ 13,999
経常収益計	90,061,000	83,796,648	6,264,352
(2) 経常費用			
事業費	58,638,000	62,072,522	△ 3,434,522
会誌出版事業費	9,840,000	17,097,600	△ 7,257,600
研究会費用	2,610,000	3,810,000	△ 1,200,000
講演会講習会費用	21,608,000	20,525,522	1,082,478
図書出版費	16,321,000	14,220,500	2,100,500
英文オンライン出版費	3,700,000	3,700,000	0
会議費	4,559,000	2,718,900	1,840,100
管理費	46,008,000	50,930,160	△ 4,922,160
給与手当	16,957,000	21,770,000	△ 4,813,000
退職給付費用	690,000	590,000	100,000
外注費	2,190,000	2,000,000	190,000
会議費	2,414,000	2,615,160	△ 201,160
表彰関連費用	1,500,000	500,000	1,000,000
システム構築費	4,600,000	4,700,000	△ 100,000
維持会員企業交流会	150,000	110,000	40,000
若手シンポジウム	50,000	50,000	0
70周年記念誌	270,000	0	270,000
機械系学協会会長懇談会幹事	10,000	0	10,000
就業規定類改定	30,000	400,000	△ 370,000
弁護士費用	125,000	175,000	△ 50,000
ソフトウェアアカウント	12,000	0	12,000
旅費交通費	45,000	30,000	15,000
通信運搬費	1,100,000	1,220,000	△ 120,000
消耗品費	750,000	430,000	320,000
印刷製本費	300,000	300,000	0
共益費	800,000	900,000	△ 100,000
賃借料	2,400,000	2,610,000	△ 210,000
租税公課	960,000	1,060,000	△ 100,000
負担金支出	1,900,000	2,670,000	△ 770,000
リース料	1,320,000	1,500,000	△ 180,000
事務局サーバーリース料	1,100,000	0	1,100,000
ソフトウェア使用料	85,000	0	85,000
支払手数料	1,500,000	1,250,000	250,000
減価償却費	3,500,000	5,000,000	△ 1,500,000
雑費	250,000	50,000	200,000
予備費	1,000,000	1,000,000	0
経常費用計	104,646,000	113,002,682	△ 8,356,682
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 14,585,000	△ 29,206,034	14,621,034
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 14,585,000	△ 29,206,034	14,621,034

維持会員一覧表

(五十音順 2026年3月31日現在)

会員名	級	会員名	級
アート金属工業株式会社	E	株式会社川邑研究所	D
Rtec-Instruments株式会社	E	キーパー (株)	E
株式会社 I H I	A	株式会社キッツ	E
株式会社アイシン	E	協同油脂 株式会社	B
愛知製鋼株式会社	E	株式会社小桜商会	E
アクロス株式会社	E	コスモ石油ルブリカンツ株式会社	A
アズビルTACO株式会社	E	株式会社小松製作所	D
株式会社 A D E K A	E	株式会社 S U P W A T	E
株式会社アドヴィックス	E	三協オイルレス工業 (株)	E
アフトンケミカル・ジャパン株式会社	E	三洋化成工業株式会社	C
株式会社天辻鋼球製作所	E	三洋貿易株式会社	E
株式会社荒井製作所	E	山陽特殊製鋼株式会社	E
イーグル工業株式会社	A	シーエルシー株式会社	E
いすゞ自動車株式会社	C	GSカルテックス	E
出光興産株式会社	S	シェブロンジャパン株式会社	B
出光NTG株式会社	C	シェフラージャパン (株)	E
出光ファインコンポジット株式会社	E	JFEスチール株式会社	D
井上軸受工業株式会社	E	株式会社ジェイテクト	S
インフィニウム ジャパン (株)	C	シェル ルブリカンツ ジャパン株式会社	A
エイヴィエルジャパン株式会社	E	シチズンマシナリー株式会社	E
株式会社 エクセディ	E	島貿易株式会社	E
エスティーティー株式会社	E	下西技研工業株式会社	E
N S K ワーナー株式会社	E	ジャトコ株式会社	E
N O K 株式会社	S	一般社団法人 潤滑油協会	E
NOKクリューバー株式会社	E	神鋼造機株式会社	D
N T N (株)	S	新日本理化株式会社	E
ENEOS株式会社	S	スギムラ化学工業株式会社	E
ENEOS和歌山石油精製株式会社	E	スズキ株式会社	E
株式会社荏原製作所	E	スターライト工業株式会社	E
株式会社エフ・シー・シー	E	株式会社スタンダード石油大阪発売所	E
エボニック ジャパン (株)	C	株式会社スペースクリエイション	E
株式会社エリオニクス	D	住鋳潤滑剤 (株)	D
株式会社 LSI	E	住友重機械工業株式会社	D
エンパリオジャパン株式会社	E	株式会社ソミック石川	E
オイレス工業株式会社	C	大豊工業株式会社	C
オートマックス株式会社	E	大生工業 (株)	E
オスカ化学株式会社	E	株式会社ダイナックス	E
カーギルジャパン合同会社	E	大同化学 (株) 技術研究所	E
花王 (株) 和歌山研究所	E	大東潤滑株式会社	E
日本カニゼン株式会社	E	大同メタル工業 (株)	C
カヤバ株式会社	E	(株) ダイゾー ニチモリ事業部	E
川崎重工業株式会社	D	ダイハツインフィニアース株式会社	E

維持会員一覧表

(五十音順 2026年3月31日現在)

会員名	級	会員名	級
大同特殊鋼株式会社	E	日本トムソン株式会社	E
大同工業株式会社	D	日本パーカライジング株式会社	E
株式会社ダイセル	E	日本ピストンリング株式会社	E
ダイハツ工業株式会社	E	日本高周波鋼業株式会社	E
ダウ・ケミカル日本株式会社	E	日本オイルポンプ株式会社	E
高千穂精機 株式会社	E	日本ルーブリゾール株式会社	B
株式会社タンケンシーラセーコウ	E	ミネベアミツミ (株)	E
株式会社タンガロイ	E	パーク・システムズ・ジャパン株式会社	E
中央油化株式会社	E	BASF ジャパン (株)	E
築野オレオケミカルズ株式会社	E	パレス化学株式会社	E
株式会社椿本チエイン	E	株式会社樋口商会	E
T P R 株式会社	E	日立建機株式会社	E
(公財)鉄道総合技術研究所	E	株式会社日立製作所	B
T H K 株式会社	E	日野自動車株式会社	E
D I C 株式会社	E	株式会社PILLAR	E
デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル(株)	D	富士ダイス(株)	E
デュポンジャパン株式会社	E	株式会社フジキン	E
株式会社デンソー	D	(株) 不二越	E
株式会社東洋金属工業所	E	富士フィルム株式会社	E
株式会社東芝	E	(株) ブリヂストン	C
東邦化学工業株式会社	E	株式会社本田技術研究所	A
東洋ドライループ株式会社	E	マコー株式会社	E
トーヨーエイトック株式会社	E	マツダ株式会社	E
トヨタ紡織 (株)	D	丸和物産株式会社	E
トヨタ自動車株式会社	A	三菱鉛筆株式会社	E
株式会社豊田中央研究所	E	三井化学株式会社	E
豊通ケミプラス株式会社	E	三菱重工業株式会社	A
株式会社トライボジャパン	E	三菱電機株式会社 設計技術開発センター	E
トライス株式会社	E	三矢精工株式会社	E
株式会社西島製作所	E	武蔵精密工業(株)	E
日本アイ・ティ・エフ株式会社	E	株式会社村田製作所	E
日本クエーカー・ケミカル株式会社	E	株式会社MORESCO	C
日本ケミカルズ販売株式会社	E	ヤマシンフィルタ株式会社	E
日本サン石油株式会社	E	ヤマハ発動機株式会社	E
日産自動車株式会社	A	ヤンマーホールディングス(株)	E
日本製鉄株式会社	E	株式会社UACJ	E
日本精工株式会社	S	株式会社ユシロ	E
日油株式会社	E	ユニオン石油工業株式会社	E
株式会社ニッペコ	E	株式会社リケン	E
日清紡ブレーキ株式会社	E	株式会社リコー	E
日鉄ケミカル&マテリアル株式会社	C	リョービ株式会社	E



発行日 2026 年 5 月

発行 一般社団法人日本トライボロジー学会

<https://www.tribology.jp>

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 407-2

TEL:03-3434-1926 FAX:03-3434-3556

E-mail:jast@tribology.jp